

「もっと本を読みたい」



書き損じハガキや 未使用切手を集めて、 ラオスの子どもたちに 図書室を贈りませんか？

1982年に活動を始めた当時、ラオスには国立図書館と国営書店があるだけでした。子どもたちの多くは教科書以外の本に触れる機会はなく、状況は今もあまり変わりません。

最近、スタッフが首都ヴィエンチャンから70キロほどにあるポンホーン小学校を訪ねました。この学校で、私たちは、22年前に図書室の開設支援を行いました。図書室で出会った5年生のティップワンちゃんは、「初めて図書室に来たときに、並んでいるたくさんの絵本にびっくりして、どれから読んだらよいか分からなかった」と話しました。というのも、家には本がなく、この学校で初めて本と出会ったからです。これは彼女に限ったことではなく、ほとんどの生徒に当てはまります。

私たちは、ラオス語の本の出版を応援し、学校図書室の開設をお手伝いして、ラオスの子どもたちが本と出会い、読書を通して世界を広げ、自分を豊かに表現する力を持って欲しいと願いつつ、読書推進活動を行っています。現在、公立学校三校で図書室開設支援を行うため、「書き損じハガキや未使用切手」を集めています。ぜひご家庭などにある書き損じハガキや未使用切手をお送りください！

(認定) 特定非営利活動法人ラオスのこども
代表 チャンタソン インタヴォン



2024年3月末まで

書き損じハガキで 図書室を贈るしくみ



書き損じハガキや未使用切手を、当会宛にお送りください。枚数が多い場合、金額ごとにまとめていただくと助かります。

お送りいただいたハガキや切手を、当会が郵便局や金券ショップ等で交換し、現金化します。

その現金を、当会が実施するラオスの学校図書室開設支援事業の資金として用います。

□ 5,000枚※ のハガキを集めると約30万円になり、ラオスの公立学校一校で図書室開設の支援ができます。

何枚からでも受け付けています。所属するグループやサークル、会社などで呼びかけて、仲間と一緒に集めてみませんか？
個人でもぜひご参加ください。

※ 63円ハガキの例

- ・郵便ハガキ・郵便局年賀ハガキで未投函のものに限ります。
- ・古いハガキや往復はがきも受け付けています。
- ・年賀や暑中見舞いのクジ番号部分は切り取らないでください。
- ・未使用の切手でもかまいません。

ポンホーン小学校で支援した図書室



1年生から5年生まで275人が通っています。週に一度、図書室での授業を取り入れています。クラスで図書室に来て1時間、好きな本を読んだり、わからないことの調べ方を先生から教えてもらったりしています。

ティップワンちゃん



甘いものばかり食べていると虫歯になることを絵本で知ったティップワンさんは、「お菓子が大好きなので 歯磨きをちゃんとしようと思います」と話してくれました。

お問い合わせ
(認定)特定非営利活動法人ラオスのこども
担当：赤井

〒143-0025 東京都大田区南馬込 6-29-12, 303
Tel/Fax: 03-3755-1603 Mobile: 090-9641-7027
Email: alctk@deknoylao.net HP: <https://www.deknoylao.net/>
Facebook: <https://www.facebook.com/deknoylao>

詳しくは
こちらから→



202311



ラオスとは

ラオス人民民主共和国は東南アジア大陸部に位置し、同じくASEANに属するタイやベトナム、カンボジアなどの他、中国とも国境を接しています。内陸国ということもあり、途上国の中でも後発開発途上国のひとつです。人口は700万人ほど、国土面積は日本の本州と同じくらいです。ラオス語が公用語ですが、多民族国家であり、約50民族が生活しラオス語を母語としない人々もいます。

メコン川周辺は首都ヴィエンチャンを中心に開発が進み、内陸部との格差は広がっています。とりわけコロナ禍以降、物価が高騰するなど、人々の生活に余裕が無くなっており、子どもたちの教育に影響を与えています。ベトナム戦争時代に受けた爆撃の不発弾が多く残る地域もあり、一人当たりの非爆弾量は世界で一番多いともいわれます。



出版してきた様々な本



設立した中学校図書館



スタッフによる小学校での活動



「ラオスの子ども」とは

ラオスでは植民地時代の影響や経済的な問題から、教育環境の整備がまだまだ不十分なところが多く、書店や図書館など本と触れ合う場所がほとんどありません。子ども用の本も少なく、地方などでは家庭で読書をする習慣もないのです。

「ラオスの子ども」は、これまで約40年間にわたり、ラオス人絵本作家の育成や絵本の出版（236種約94万冊）、学校図書室・図書館の開設支援（351校）などを通じ、読書推進活動を続けてきました。図書室は作って終わりではありません。運営をしていく教員や図書委員となる生徒を育成し、授業などで図書室が積極的に活用され、さらに教員が図書を用い授業の質を高められるように研修をおこなっています。私たちは、最終的にはこれらの活動が、現地の行政、教員や生徒たちにより担われ、運営していけるよう目指しています。

読書から得られるもの

本を読むことで子どもたちが得られることはたくさんあります。識字以外にも、想像力や協調性、感情をコントロールする力などを身につけることができます。登場人物に感情移入し、仲間と協力すること、人が喜ぶこと、嫌がることなども絵本などから学ぶことができます。また、読書は自分が住む地域の外の世界の文化や価値観に触れる機会にもなります。おおきなかぶ という絵本を読んだことがある人は多いのではないのでしょうか。私たちも2020年にラオス語版を出版しました。いろんな人、いろんな動物がいて力を合わせることができるとい趣旨のお話です。この本はもともとロシアの昔ばなしです。子どもたちが未来を自ら自由に選択するためには、このような日常と全く異なる、外の世界を知ること大きなきっかけとなるかもしれません。知らなければ選ぶことはできません。子どもたちは、読書により、様々なジャンルから自分が興味を持てるものを探し出し、未来を切り開いていくことができます。

お問い合わせ

(認定)特定非営利活動法人ラオスの子ども (担当: 赤井)

〒143-0025 東京都大田区南馬込 6-29-12-303

Tel/Fax: 03-3755-1603 Email: alctk@deknolao.net

HP: <https://www.deknolao.net>

Facebook: <https://www.facebook.com/deknolao/>

ホームページ
はこちらをご
覧下さい →

